

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371100413		
法人名	有限会社 古川商事		
事業所名	グループホーム ございしょの里 1号棟		
所在地	〒026-0301 事業所住所 岩手県釜石市鶴住居町第23地割21番地1		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和5年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活気あるグループホームを目指してレクリエーションを取り入れたりと活動的におこなっています。又、他のユニットとの交流の場も増えてきています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

釜石の根浜海岸の程近くにある2ユニットの事業所は、震災の様々な困難を乗り越えて今日に至っている。自治会に加入し地域との繋がりも順調であった一昨年前を境に、コロナ禍により日常的な外出支援も難しくなったが、入居者の機能を悪化させないことを念頭に、全職員の知恵を出し合い、ホーム内での様々なレクリエーションや入居者の潜在能力を引き出す昔語りや歌、踊り、物づくり等を行なうことにより、ホーム内での活気が維持され、名実ともに理念に掲げる「あかるく、あたたかく、まるく」とする事業所として運営されている。利用者は、敷地内での夏野菜や花木を育て、一緒に散歩したり、午前・午後のお茶の時間を設け、寄り添い、語り合い、穏やかな生活を送っている。介護の実践に当たっては、毎月のユニット単位でのミーティングで利用者全員についてのモニタリングを行ない、計画の達成状況を見極めながら3か月毎に職員全員での議論を経て見直しを行っており、利用者それぞれの個別援助目標を職員間で共有して行なっている事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年12月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに基本理念を提示している。 ミーティングで理念について職員で話し合い実践につなげております。	開設時から継続している理念「太陽の如く、明るく・あたたかく・まるく」を掲げ、全職員が家庭的なホームを目指し、日々のミーティング時に、昨日よりは今日・今日よりは明日と、振り返りと目標を確認し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止の為、地域交流が出来なかった。今後、回復次第以前のように交流するように努力します。	町内会に加入し、回覧板から地域内の情報を得ている。コロナ禍で殆ど地域内での交流は出来ない状況にあるが、時折近所の方々から野菜や魚の差し入れが届いたり、2ヵ月毎に馴染みの床屋が訪問している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の取り組みはしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止のため、運営推進会議は、会議形式での開催は中止し、会議資料を委員、職員配布、書面による質疑をとっています。	運営推進会議委員として警察・消防・民生委員・財産区委員・地域包括支援センター・職員代表・家族代表等を選任している。コロナ禍のため書面会議とし、職員が委員に会議資料を配布しながら意見要望を伺っているが、現在のところ意見要望は特にない。これまで職員も会議の情報を共有し、事業所運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員がおり色々相談して協力関係を築いております。	市の担当課とは、最近入居した方の状況や新規受け入れなどについての連絡をとり合っている。併せて、コロナ禍の注意事項や公的な連絡事項についても指導をいただいている。行政との打合せ等を担当する法人専任の事務職員を配置し、市との円滑な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、利用者の見守りを行ない、居室や玄関に鍵をかけていない。夜間のみ安全確保のため玄関に施錠しています。	代表を含め全職員が身体拘束委員会のメンバーとなり、3ヵ月毎にユニット別に開催している。家族了解の下で1名の方がセンサーマットを使用している。建物の構造上1号棟は二階建て、2号棟はディサービスの二階にある。入居者は相互に往来できる状態であるが、複数ある階段やエレベーターにも、昼夜とも施錠することなくすべて職員の見守りで対応している。スピーチロックに関し、それらしい言葉を耳にした際には、日々のミーティングでの振り返り時に、管理者が注意喚起している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフが法律そのものを詳しく学ぶ機会がもてないのが現状です。年1度ではありますが内部研修を行い虐待はあってはならない指導をしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所では、地域福祉権利擁護を利用されている方はいません。全スタッフが専門的な外部研修を受けていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に契約の締結や解約は理解や納得が得られるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「投書箱」を設置しております。苦情や要望はありませんが、担当スタッフが敏速に対応するようにしております。	コロナ禍により、家族の面会等が少なくなっている現在、ホームの広報やお便りで入居者の状況を報告し家族が把握出来るようにしており、感謝されている。入居者からの意見は特にないが、会話の中や七夕飾りの短冊へ記入された(干し柿や最中が食べたい等)ささやかな要望にも、出来るだけ希望に沿うよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員よりレクリエーションで使うもの(体操のDVD)提案され購入するなど職員の提案が反映されている。	利用者目線で支援していることもあり、職員の提案は介護に必要な日常の用品や行事に関するものが殆どである。コロナ禍で外出が難しいだけに、事業所内でのレクや体操、懐メロ等、職員の提案で購入したDVD等は好評で、フルに活用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講している。 内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心身の状況を把握し安心して過ごせるよう声掛け傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を希望される御家族からも、意向を伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の基本情報を支援の参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が楽しみごとを一緒に楽しむように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回のお便りで本人の様子を知らせ、共に本人を支えている関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望があれば対応して行きたい。	長期間のコロナ禍の影響が大であり、以前尋ねてきていた友人等の来訪もなくなった。それでも家族との手紙の交換や、スポーツ新聞をとってる方、髪の設定で美容師を頼む方など、馴染みの継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で助け合ったり支えあったりすることができるように支援を日常行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後継続的な関わりを必要・希望される方はいませんが今後継続的な関わりを必要とする利用者や家族がおりましたら対応して行きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話を傾聴し希望や意向の把握に努めている。	午前・午後のお茶の時間や入浴時のゆったりした時間等を利用して利用者の意向把握に努めている。両棟合わせて4名の方が表情や仕草で意思を伝えている。身近に食べ物話題が多いが、殆どの方は健康で長生きをしたいことが一番の願いと管理者は受け止めている。稀に何を望んでいいのか判断できないときは、家族から伺うこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時、本人や家族から話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、介護記録、申し送りノートに記録し、引き継ぎ時口頭で状況報告の上で申し送る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、家族・本人の希望や意見を取り入れて作成している。	毎月のユニット単位のミーティングで、利用者全員についてのモニタリングを行っている。計画の見直しは3ヵ月毎に行い、職員全員での議論を経て計画作成担当者が生活記録等を活かしながら成案をまとめ、家族に説明している。期間中に変化が現れた際には、臨機応変に対応し、家族に説明している。	

事業所名 : グループホーム ございしよの里 1号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、介護記録、申し送りノートに記録し、引き継ぎ時口頭で状況報告の上で申し送る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内でのデイサービス、ショートステイは実施していない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、家族同行をお願いしています。但し、緊急時については家族の希望を優先させ職員が同行支援する事がある。	かかりつけ医の受診は原則家族同行となっているためか、毎月2回の訪問診療に訪れる医療機関(内科・脳外科・在宅療養)にかかりつけ医を変更する例が多い。現在10名が訪問診療を受診しており、薬は薬剤師が届けてくれる。以前からのかかりつけ医には全体の半数程度の利用者が受診者している。家族が同行して受診する際にはバイタルチェック表とメモを託し、受診結果は即日家族から確認している。歯科の訪問診療もあり、希望者は受診可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないので、バイタルを測定し日頃と変わった時はすぐに病院受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要になった時は、その利用者の経過記録を報告する事や普段の様子(介護サマリー)を詳しく伝えるようにしている。 早期退院計画はしていない。		

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	異常時は、かかりつけ医に連絡し医師の判断をおおぐようにしています。	家族には重度化した際の行き先などについて入居時に本人・家族に説明し確認している。これまで訪問診療医の判断・支援を得ながら、家族の要望に応じ6名の看取りを経験している。マニュアルは用意しており、職員も経験してはいるが、再度、訪問診療医を中心に事業所全体での重度化・看取りに関する協議の場を持ちたいとしている。	看護師がいない中での看取りは、利用者の観察や介護に当たる職員の技術と心構えが大変なことで容易に推測できません。今後、家族の泊まり込みに関する配慮も含め、事業所全体に係る大きな課題として取り組まれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり職員がいつでも閲覧できる場所に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年2回行っている。	火災想定訓練を年2回消防団の立会で実施している。緊急連絡網を整備し、避難場所の確認、食料の備蓄も点検済みである。訓練には地区の消防団員3名も参加している。二階から避難する際の階段の降り方、近隣からの応援、夜間の対応等が具体的に検討できていないことが課題として挙げられている。	2ユニットで利用者15名が二階から避難する際には、安全に素早く階段を降りなければならない。消防署の指導を得た実地の訓練を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや誇りに配慮し普段から言葉使いに気を付けている。言葉使いや対応については職員の間で声を掛け合って直すように取り組んでおります。 内部研修を行っている。	プライバシーや誇りに配慮し、広報等の写真掲載に関する本人・家族からの承諾を得ており、また日頃の利用者への接遇の在り方についても、管理者が中心となって内部研修を行っている。特にも難聴者への対応は、管理者が中心となって指導している。コロナ禍において、入居者の外出機会が制限される中であって、入居者の潜在能力や個性の記録を基に、野菜づくり・縫い物・音楽・かるたとり等々多彩な工作やレクリエーションを提供している。ホーム内での雰囲気は「太陽の如く、明るく・あたたかく・まろく」とする理念そのものである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とゆっくり話をしている。 服装、食事等で利用者に対して見守りの中で自由にさせて支援している。		

事業所名 : グループホーム ございしよの里 1号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望が実現できる様に意向を伺っておりますが全て希望に応え切れない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望に任せている。 希望のメニューを聞いたり献立に反映されるように支援したり後片付けを一緒に行っている。	食欲が増すよう色合いにも配慮された献立や調理は、1号棟では職員が交代で行い、2号棟では調理専門の職員の手を借りながら行っている。誕生日にはお寿司とケーキ等も用意し、季節や行事に応じて入居者に喜んでもらえるように工夫した食事の提供に努めている。干し柿を食べたいとの利用者の希望を受け、1、2号棟合同で柿の皮むきや多彩なゲームを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況や咀嚼能力に応じた献立に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け誘導で行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便・尿の回数チェックを行っております。声掛けで良い方、見守りが必要な方、積極的な関わりが必要な方、それに合わせた排泄支援を行っている。	全体で7名が声掛けだけで排泄が自立している。便座に座って排泄する習慣を無くさない様に、一人一人のサインを全職員が把握し、更に排泄チェック表も参考にして、羞恥心にも配慮して支援している。夜間トイレに立った際の合図となるスリッパに付けた鈴の音は、廊下でも確認することが出来る。全体的に入居時からの排泄状況は、悪化することなく現状を維持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無の把握に努めている。飲食物の工夫や運動の働きかけも行っている。1人1人の状態で薬を使用するなどしております。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、利用者の自由に希望がない時は、3日に1回にしています。入浴中は楽しく気持ちよく過ごして頂ける会話を多く発言を引き出せる様心掛けています。	週2回午前中の中の入浴とし、1号棟は個浴、2号棟は大型浴槽となっている。入浴を拒否される方はいない。職員からの声掛けで、利用者との会話が弾む大事な時間となっている。思いがけず聞き取った言葉があれば、日誌に記入し共有を心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時使い慣れてる物を持ち込んでいただいております。又、昼寝や就寝時間は利用者任せにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り服薬を実行(ホーム管理)注意を払っている。服薬リストを介護日誌にセットし職員全員が目を通す様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	休憩室で歌を唄う利用者、それぞれ好きな事をいただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は希望により日常的な散歩(施設中庭)を行ったり、施設の庭で花火やスイカ割、バーベキューをしたり楽しんでいただいております。コロナウイルス感染防止のためバスバイクは実施せず。	好天時に2台の車で季節ごとにドライブやバスバイクに出かけていたが、コロナ禍のためホーム周辺(中庭含)の散歩やプランターの手入れなど、職員の介護に対する姿勢とアイデアにより、入居者は活動的な日々を過ごしている。特に両棟ともプランターを備え、旬の野菜や花等の世話をし、育てる楽しみ、収穫の楽しみ等を体感している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の預り金は、施設で管理している。利用者が希望する時は、職員が同行するなど対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族に手紙を出したいと言う利用者はおりませんが家族に電話をかけたいという利用者には職員がついて支援しています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしよの里 1号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔が第一と考えております。快適に過ごして頂ける様季節の花を飾ったり季節ごとの飾り付けを行いその雰囲気を楽しんでいます。	清潔・清掃を第一に、1号棟は職員が随時清掃を心掛け、2号棟は専属の清掃員が月1、2回来所し清掃を行っている。ホールには季節を感じさせる飾り付けや利用者の作品が飾られ、両棟とも広いホールが一層明るい雰囲気になっている。エアコン・加湿器・温風ヒーターも備わり、程良い環境が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂及び談話室に椅子を置いて思い思い過ごす場所は確保できています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に、今まで通り使用していた物を出来る限り使用するようにすすめ利用者の好みに任せています。	居室にはリースのベッドを備え、テレビ・タンス・位牌・家族写真を持ちこんでいる方もいる。手製の作品を飾り、好みの部屋の雰囲気作りがなされている。入り口の表札代わりに、好みの動物の名前が掲示され、あたたかい雰囲気が醸し出されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、トイレなどすべて歩行できる場所は、手すりを設置しています。又、廊下に思い思い過ごせる場所も設けるなど工夫しています。		